

テーマ:地域在宅看護論における新たな「地域と暮らし実習」への取り組み

カテゴリー:③教育方法

学校概要:学校名:横浜市病院協会看護専門学校

所在地:神奈川県横浜市港南区港南台 3-3-1 課程名:3年課程 1学年定員数:80名 修業年限:3年

「内容」:「地域・在宅看護論」へとカリキュラムが改正され、施設内での看護に留まらず、これからの社会を支えていくために地域包括ケアをより推進していけるよう、また地域共生社会を実現していける看護師の育成を目指している。

「目標」1年次より地域に出向き、地域を視る要素を理解し、その特徴を把握できる。さらに地域住民と関わり人々の暮らしがどのように行われているのか、人々の暮らしを支える社会資源の実際を学ぶ。

「地域と暮らし実習」を体験する前に次の2つの科目を学習している。

時期	科目	内容
1年次11月	地域の暮らしと看護	・地域の人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解できるよう、地区踏査を実施。 ・コミュニティー作りや、パートナーシップの基本を理解する。 ・地域包括ケアシステムにおける看護の役割を知る。
1年次11月	地域と福祉	・少子高齢化、情報化、グローバル化が進展していく中、暮らしの諸問題は何かを知る。 ・問題を解決し個人の生活を守っていくために、住民と専門職、行政、NPOなど地域における様々な活動主体のつながりや、参加と協働が欠かせないことを理解する。 ・地域社会が変容する中で、地域福祉計画づくりなど新たな地域福祉の創造に向けた手法と具体策を学ぶ。

時期	科目	内容
1年次1月	「地域と暮らし実習」	・様々なライフステージにある人の、地域での生活環境を理解し、暮らしが健康に与える影響を考える。また、地域の人々の生活を支えている社会資源の仕組み、施設の役割や活動の特徴を知る。さらに、実習を通して、地域包括ケアシステムにおける自助・互助・共助・公助の重要性について考えることができることを目指した。

・実習は、学生2名が1組になり5日間臨地へ行き、1人3施設を体験できるよう構築した。地域包括ケアシステムでの各ライフサイクルに応じた施設や機関を選択し、医療系の施設として訪問看護ステーションと訪問診療のどちらかを必ず体験できるように配置した。福祉関連の施設・機関として、子育て支援拠点・障がい者福祉施設・老人福祉センター・デイサービス・社会福祉協議会に依頼した。

・取り組みについての所感(地域・在宅看護論専任教員:原田典子/峰尾敦子)

本実習は、全7機関30施設で構成しているが、事前に全施設に出向き多くの時間を使い細かい調整を行った。実習体験が少ない1年生が、2人で協力し合いながら教員の同行が無い中、3施設を巡ることへの若干の不安もあった。

しかし、詳細な打合せにより、学生の主体性や責任ある行動の遂行に繋がっており、施設の方々からは温かくまた学生を尊重してご指導いただいたことに感謝の念に堪えない。健康な高齢者が集う老人福祉センターでは、生き生きとして活発な方々から親和的に活動の様子を語っていただき自助活動の重要性を実感していた。また高齢者仲間との交流が深められ互助の役割も理解できた。そして重度な障害を持ち施設に通っておられる方に初めて接した学生は、スタッフの方と自然にレクリエーションを楽しんでいる姿に心が洗われる体験だったと感動を覚え、今後の看護への学習の後押しになったと語っていた。今までは良く認識できていなかったが、地域には様々な健康を守るための仕組みや、安心して幸せに暮らしていけるよう支えている社会資源があることを学ぶことができた。これらの学びが、2・3年生の今後の学習にどう繋がられるか再考していきたい。